

2015年8月12日

## 声明

### 川内原発の再稼働強行に断固抗議し、運転停止を求めます

さよなら原発ヒロシマの会

九州電力は、8月11日、川内原発1号機を再稼働させました。

わたしたち、さよなら原発ヒロシマの会は、世論を無視して強行したこの行為に対して強く抗議し、直ちに運転を止めるよう求めます。

福島第一原発は事故から4年以上経った今も原子炉内部の様子すらわからず、汚染水対策も確立できず、住民に不安を与え続けています。核燃料を燃やした後の放射性廃棄物という負の遺産もあります。このような厄介な原発に依存することに多くの国民は危惧しています。原発依存に回帰することは国を破滅させる道です。

川内原発周辺の自治体が住民説明会を開くよう求めているにもかかわらず、これを無視して九州電力は再稼働を強行しました。避難計画については、自治体まかせで、国として責任を持って整備することになっておらず、ほとんどすすんでいません。国際原子力機関(IAEA)は安全確保のために「5層の防護」を示しています。第4層は過酷事故対策、第5層は避難計画です。規制委員会の審査には避難計画は含まれておらず、これを放棄して「世界で最も厳しいレベルの規制基準」とは国民をだますための言葉にすぎません。

とりわけ川内原発周辺には巨大噴火を起こした火山がいくつもありますが、大噴火の予測は困難とする多くの火山学者の意見を九州電力と規制委員会は事実上無視しました。

安全対策の第4層、過酷事故対策も不十分です。限られた事故シナリオで評価していますが、想定外のことが起きるのが大事故です。全電源喪失で炉の状態が不明になった福島の教訓はどこへいったのでしょうか。川内原発のような加圧水型原子炉では格納容器が第4層の要とされています。それが破壊される恐れのある水蒸気爆発や水素爆発の検討は全く不十分です。電力会社任せの机上の議論で済ませてしまっています。

また原子炉の高経年化対策は申請からわずか1ヶ月後の8月5日に規制委員会が認可しました。加圧水型原子炉のアキレス腱といわれる蒸気発生器の劣化による耐震性の評価が含まれ、今回の再稼働に間に合わせるためのずさんな審査という疑問があります。

あらたな安全神話に基づく再稼働は決して許されません。

原発に血道をあげるのではなく、わが国に豊富な自然エネルギーを利用することこそが、将来にわたって国民の安全と持続可能な経済発展の道です。

さよなら原発ヒロシマの会

事務局 広島市中区大手町 4-2-27-403  
広島共同センター内

TEL:082-245-2501 FAX:082-245-2502

URL: <http://zeronpphiroshima.daa.jp>

E-mail: [info@zeronpphiroshima.daa.jp](mailto:info@zeronpphiroshima.daa.jp)